

目 次

第1章 襖

1 襖の歴史	7
1.1 鎌倉時代	7
1.2 安土桃山時代	8
1.3 茶道興る	8
1.4 江戸時代	8
1.5 大正・明治時代	9
2 襖の形体および種類	9
3 襖材料	11
3.1 襖 芯	11
3.2 和襖の素材および構造と各部名称	12
3.3 襖骨の種類	12
3.4 骨の組み方	14
4 襖 縁	15
4.1 生地縁	15
4.2 塗り縁	15
4.3 塗りの種類	15
4.4 縁の色	15
4.5 塩化ビニル縁	16
4.6 縁の名称および寸法	16
5 襖の下張りおよび上張り	20
5.1 下張り	20
5.2 上張り	20
6 襖施工上必要道具	21

第2章 襖製作法

1 寸法取り	23
2 寸法割出し	24
2.1 片開き	25
2.2 2枚開き・観音開き	26
2.3 親子観音開き	26
2.4 太鼓襖の骨の寸法割出し	26
3 下張り作業	27
3.1 骨縛り	27
3.2 べた張り(打付け)	28
3.3 反り止め	29
3.4 回りすき(削)作業	29
3.5 蓑張り	29
3.6 蓑押え	30
3.7 袋張り	30
4 上張り	31
4.1 上張り紙の寸法裁ち	31
4.2 上張り紙の張り方および糊の付け方	32
5 建合せ作業	32
6 引手穴あけ作業	33

第3章 襖の張替え作業

1 縁の外し方	36
2 引手を外す	37
3 上張りのはがし方	37
4 袋張り	39
5 上張り	41
6 糊の練り方および糊の付け方	43
6.1 糊の練り方	43

6.2 糊の付け方	43
7 縁の取付け作業	47
8 源氏襖(中抜襖)の張替え作業	49
9 戸襖張り	52
10 太鼓襖の張替え作業	55
11 ダンボール襖の張替え作業	62
12 襖の張替えの段取りおよび要領	65
12.1 張替え作業の点検	65
12.2 縁および引手の記号(番号)の大切さ	66
12.3 襖の正しいはめ方	66
12.4 紙の裁ち方	67
12.5 引手	68
12.6 糊	69

第4章 障子

1 障子の歴史	71
1.1 平安時代	71
1.2 鎌倉・室町時代	71
1.3 江戸時代	72
2 現代障子紙の沿革	72
3 障子の種類および構造と各部の名称	72
3.1 水越障子	73
3.2 額入り障子	74
3.3 雪見障子	74
3.4 引分け猫間障子	74
3.5 横繁障子	75
3.6 縦繁障子	75
3.7 荒組障子	75
3.8 掛障子	76

第5章 障子の張替え作業

1 障子の建込み	77
2 古紙をはがす	78
3 障子紙を張る準備	78
4 障子紙を張る	80
4.1 手漉き和紙の張り方	81
4.2 機械漉き和紙(幅95cm×60cm)の張り方	82
作業者の心得	83
参考資料	
尺貫法とメートル法の概略の換算表	84

第1章 襖

1 襖の歴史

襖がどのようにしてできてきたのかは、はっきりとは分からないが、平安時代の貴族階級の住居は間仕切りの少ない寝殿造りであったので、冬の寒さをしのぐために几帳ちようびようや屏風ついで、衝立ついでを使っていた。それが工夫改良されてできたものが襖障子である。木の格子の両面に絹または麻布などを張り、柱と長押ながおしの間に嵌め殺しにして使われたと思われる。

9世紀ごろに中国より唐絵からが入ってきた。また日本では大和絵が描かれ始めており、それらを襖障子に張るようになった。

11～12世紀ごろになると絵巻物が盛んに描かれ、襖障子や屏風、壁などに張られた。その時代の絵画の代表的なものとして源氏物語絵巻・伴大納言絵詞ばんだいなごんえことば・鳥獣戯画ちようじゆうぎが・信貴山縁起絵巻しんぎさんえんぎえまきなどがある。

13世紀の初めには長押の間に敷居、鴨居を入れて襖が引き違いになるようになり、ほぼ現在の襖と同じように完成されたようである。

1.1 鎌倉時代

鎌倉時代(1193～1333)になると仏画や大和絵の制作はますます盛んになり、来迎図らいごうずや絵巻物は理解しやすいので今まで以上に需要が増えてきて、春日権現験記・北野天神縁起・平治物語絵巻もうごしゅうらいぎことば・蒙古襲来絵詞しょうへいがなどの障屏画が製作された。

南北朝時代(1334～1392)には手工業が発達し、織物では京都の西陣きんらんどんすで金襴きんらん縮緬ちりめんなどが造られた。

紙では美濃・播磨・讃岐・越前・大和などで地方独自の紙すが漉かれるようになった。